



EF企業研修成熟度レポート2026

# AIと個別最適化による 高成果を生む語学研修プログラムの実現

ビジネス成果を加速させる高度な  
語学研修プログラム構築  
のためのフレームワーク

2026  
edition





## 目次

エグゼクティブサマリー .....	5
主な調査結果 .....	6
<b>はじめに .....</b>	<b>7</b>
言語プログラムの成熟度をどう定義するか? .....	8
地域別成熟度分布 .....	9
<b>なぜ今、組織は成熟した語学研修プログラムに投資すべきなのか? .....</b>	<b>10</b>
成熟したプログラムは収益性と財務的成長を支える .....	11
学習文化は従業員のエンゲージメントを強化し、離職率を低下させる .....	13
言語プログラムの成熟度はイノベーション実践を促進する .....	14
<b>成熟したプログラムの特徴とは? .....</b>	<b>16</b>
成熟したプログラム構築におけるAIの役割 .....	17
パーソナライズされた学習体験 .....	19
文化的流暢性と高度なプログラム機能 .....	20
レビュー、測定、およびビジネス目標との整合性 .....	21
<b>結論および推奨事項 .....</b>	<b>24</b>
本レポートについて .....	28

[[言語学習がもたらした最大の影響は]  
従業員が国際交渉をより自信を持って遂  
行できる能力を備え、クライアントが理  
解されていると感じて満足度が向上し、従  
業員間の絆が強まったことです。]

ブラジルに拠点を置くコンサルティング会社CEO(年間収益5億  
100万ドル以上、従業員数1万人以上)



# エグゼクティブサマリー

多国籍企業の経営陣は、特に英語における言語スキルが、グローバルチーム間の日常的な協業の質に影響を与えることを理解しています。一方で、言語研修がビジネス全体に与える影響をどのように評価し、その価値を金銭的に可視化するかは、依然として大きな課題となっています。

2025年、EF Corporate Learning は初の「成熟度レポート」を発表し、企業の言語プログラムの「成熟度」(開発レベル)と、収益性、成長、従業員定着率を含む全社的なビジネス指標との間に明確な相関関係があることを示しました。

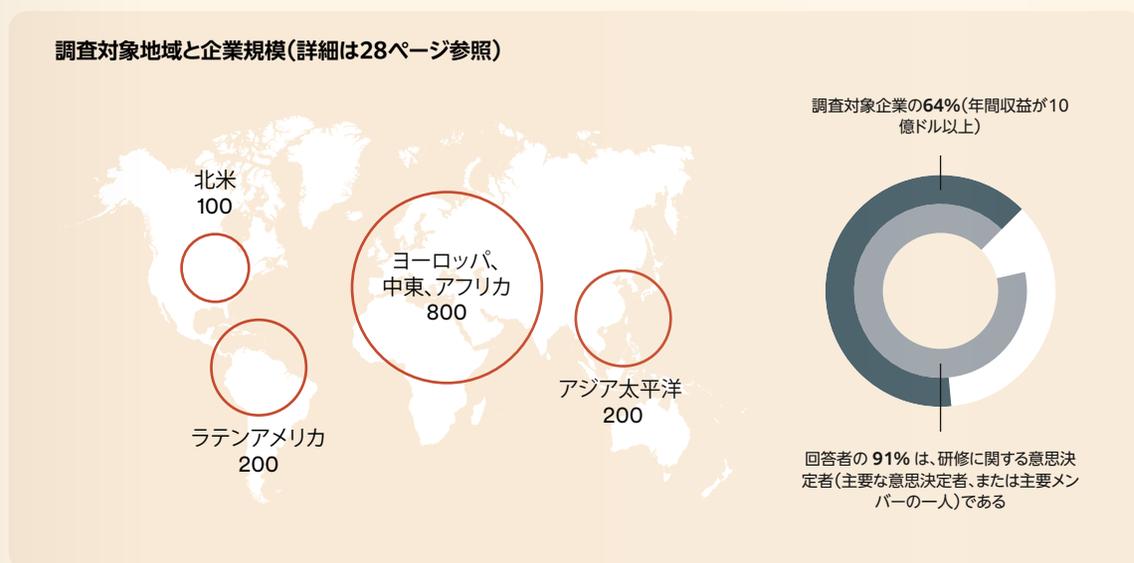
その基盤を踏まえ、本レポートでは1,300社の多国籍企業のビジネス成果を追跡し、各社の言語プログラムの成熟度と照合しました。分析の結果、言語プログラムの成熟度と財務実績との関連性は前年よりもさらに強固であることが判明し、最も

成熟したプログラムは一貫して高い利益率と持続的な事業成長と関連していました。

本レポートではさらに、AIや学習のパーソナライゼーションの役割を含め、企業が成熟度曲線をさらに上げるための背景を探求しています。多くの企業では言語研修プログラムに何らかの形でAIを導入していますが、その効果は活用する機能によって異なります。同様に、人事・プロジェクトリーダーが言語プログラムの最重要機能としてパーソナライズ学習を挙げる一方で、実際にこれを実践している組織は現時点で少数派です。

これらの知見は総合的に、組織が語学研修を強化する方法を明確に示しています。後述の通り、成熟度曲線に沿って向上する企業は、財務実績と従業員エンゲージメントの継続的な向上を報告しています。

## 調査対象地域と企業規模(詳細は28ページ参照)



## 主な調査結果



### パーソナライゼーションとAIは成熟したプログラムの決定的な特徴になりつつある

**94%**

企業の94%が言語プログラムでAIを活用していると回答しているが、完全に導入しているのはわずか29%である

**10x**

成熟度が非常に高い組織は、言語プログラムにAIを完全に導入している可能性が10倍高い（成熟度が低いカテゴリーと比較）

**最も重視される機能**

人事・人材開発責任者は、言語研修プログラムにおいてパーソナライズされた1対1の学習を最も重要な機能として挙げている

**37%**

の企業がパーソナライズされた学習パスを提供している（成熟度が非常に高い組織では89%に上昇）



### 成熟した語学研修プログラムは財務パフォーマンスの向上と相関関係にある

**2倍**

成熟度が非常に高い企業は、成熟度が低い企業と比べて、純利益率がほぼ2倍であると報告している（純利益率：23% 対 12%）

**95%**

非常に成熟度の高い企業の95%が前年度に収益増加を経験し、98%が次年度のさらなる収益成長を見込んでいる

**86%**

過去2年間に2つ以上の新規市場へ進出（対して、成熟度が非常に低いカテゴリーでは24%）



### 言語プログラムの成熟度が高まるほど、従業員のエンゲージメントと定着率が向上する

**92%**

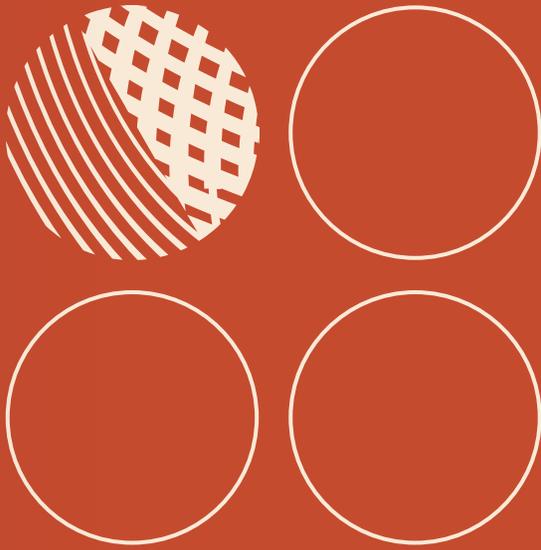
非常に成熟度の高い組織の92%が、高いまたは非常に高い従業員エンゲージメントを報告している（成熟度が非常に低いカテゴリーでは39%）

**2x**

成熟度が非常に高い組織は、最低限の従業員離職率と高い定着率を報告する可能性がほぼ2倍高い（成熟度が非常に低いカテゴリーと比較）

**86%**

非常に成熟度の高い企業の86%が強い企業文化を有している（成熟度が非常に低い企業では27%）



# はじめに

# 言語プログラムの成熟度をどう定義するか？

当社の成熟度モデルは、組織の語学研修プログラムの現状を評価するフレームワークです。語学プログラムは下記の5つの特性に基づき評価され、総合スコアに応じて「非常に低い」から「非常に高い」までの5段階に分類されます。この成熟度スコ

アは、収益、収益性、従業員エンゲージメントなど、全社的なビジネス指標との関連性を追跡することが可能です。

## 言語プログラムを低から高の「成熟度」で評価する方法は？

特性	採点方法
プログラム内容と学習方法論	1~5点
学習プロセスの個別化	0~5点
研修プログラムの見直し・更新の頻度	0~5点
事業目標・業績目標との整合性	0~10点
企業学習文化への定着度	0~5点

特性がより発達(「成熟」)しているほど、スコアは高くなる

	成熟度が非常に低い	成熟度が低い	中程度の成熟度	高い成熟度	非常に高い成熟度
ポイント	1~15	16~20	21~23	24~27	28~30



# 地域別成熟度分布

昨年の調査と比較すると、全体的な成熟度レベルには一定の進展が見られます。2026年には、企業の18%が「非常に高い成熟度」カテゴリに分類されている一方、2025年は14%にとどまっていた。

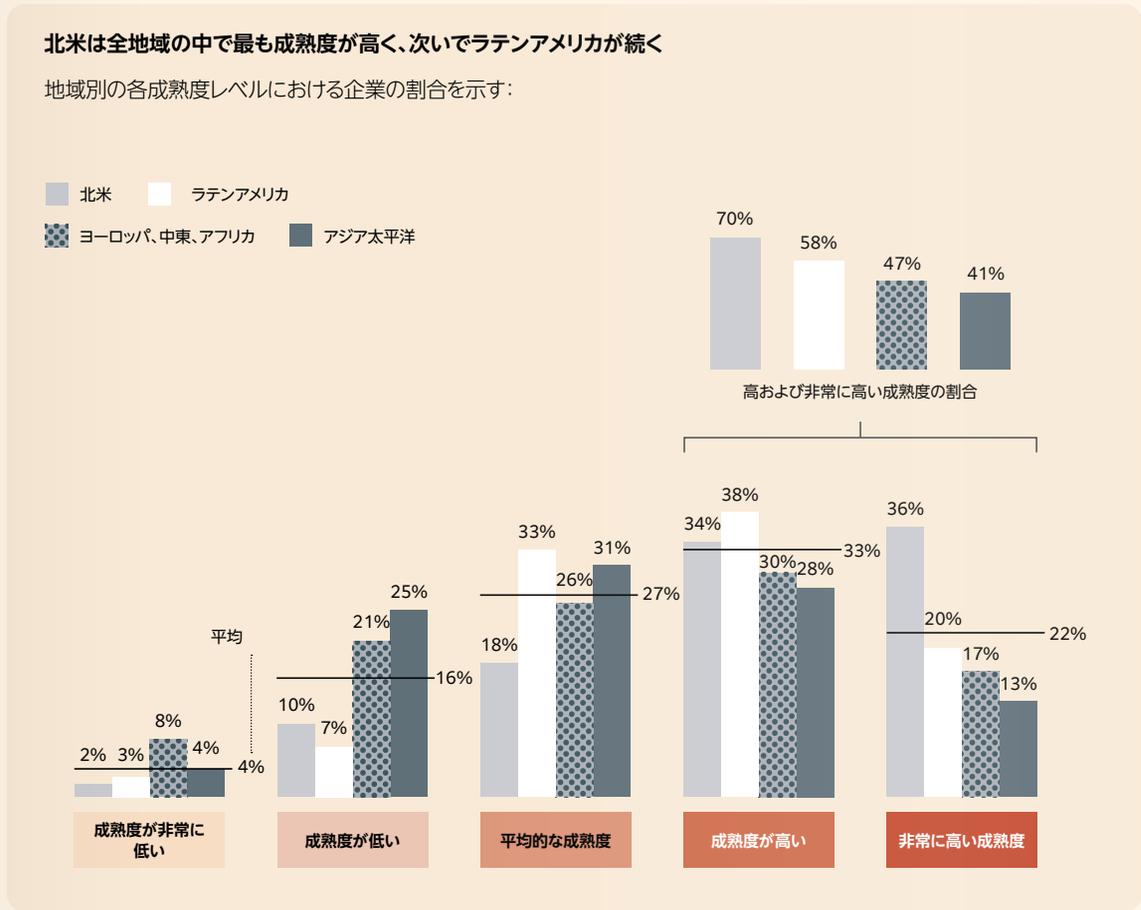
APAC地域は今年、より漸進的な動きを示し、成熟度の高いカテゴリで緩やかな成長が見られます。同地域の多くの組織は基礎的なプログラム要素に引き続き注力しており、他の地域と比較してAI導入やパーソナライゼーションのレベルは低くなっています。

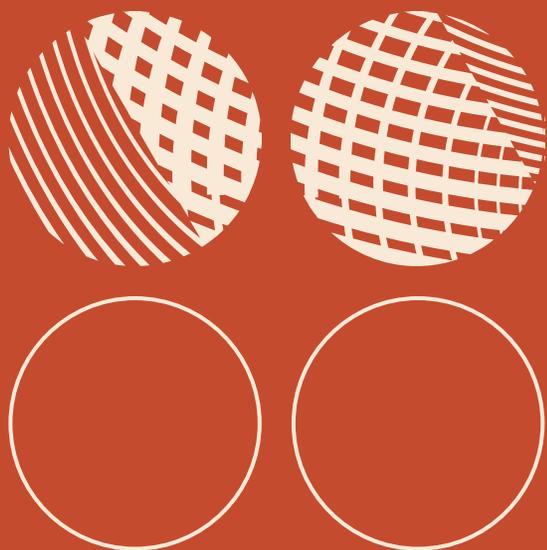
今年は、北米において「高い成熟度」および「非常に高い成熟度」のカテゴリに属する組織の割合が増加し、全地域の中で首位に躍り出ています。同地域ではAI機能の導入が進むとともに、プログラムの統合もより一層深化しています。

ラテンアメリカは引き続き高いパフォーマンスを維持しており、特に戦略的整合性の面で顕著な成果を示しています。同地域の組織の93%が、自社のプログラムはビジネス目標と完全に、またはほぼ整合していると回答しています。

EMEA地域も着実な進展を示しています。文化的統合、プログラムへのアクセス、ならびに企業目標との整合性において改善が見られますが、レビューの頻度やパーソナライゼーションの水準には、市場ごとにばらつきがあります。

2026年には 18% の企業が成熟度「非常に高い」カテゴリに該当し、2025年の 14% から増加している





なぜ今、組織は成熟した  
語学研修プログラムに  
投資すべきなのか？

# 成熟したプログラムは 収益性と財務的成長を支える

言語プログラムの成熟度が高い、あるいは非常に高い組織は、収益、利益、市場拡大の指標において、同業他社を継続的に上回っています。今年の結果は、2025年に確立されたパターン、すなわち言語プログラムの成熟度が高いほど、より強力なビジネスパフォーマンスにつながるという傾向を裏付けています。

成熟度レベル間の財務格差は年々拡大しています。利益率は全体として上昇しているものの、最も急激な伸びは「非常に高い成熟度」の組織に集中しており、高度なプログラムに関連するリターンが加速していることを示唆しています。収益予測においても同様の傾向が見られ、最高成熟度に分類される企業は、今後1年間にわたる継続的な成長を見込んでいます。

収益、純利益、市場拡大は  
いずれも、言語プログラムの成熟度と密接に関連している



図 1A  
御社の昨年の収益は増加しましたか、それとも減少しましたか？

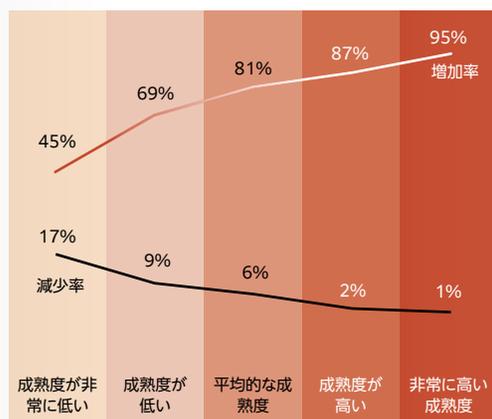


図 1B  
御社は来年度の収益が増加するか、減少するか見込んでいますか？

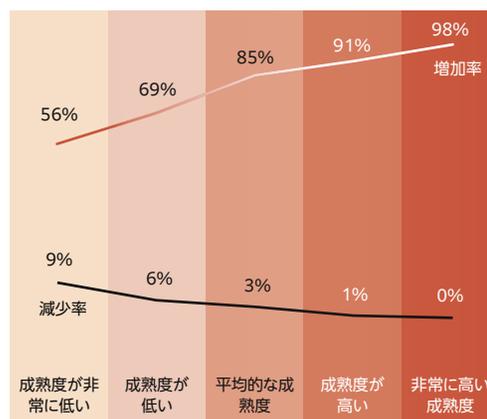


図 2  
前年比平均純利益率

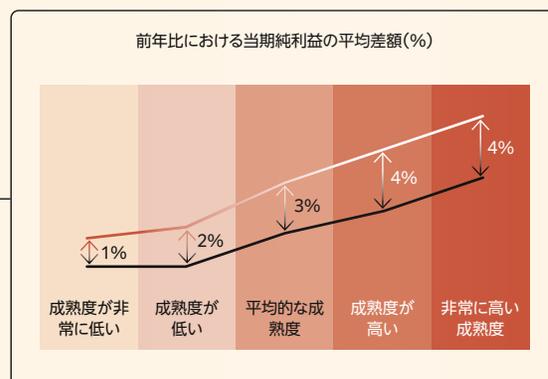
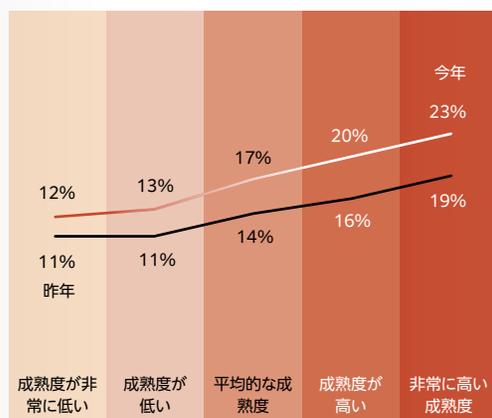
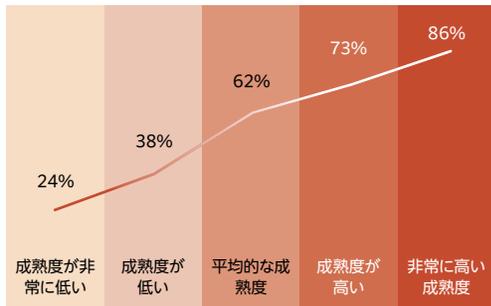


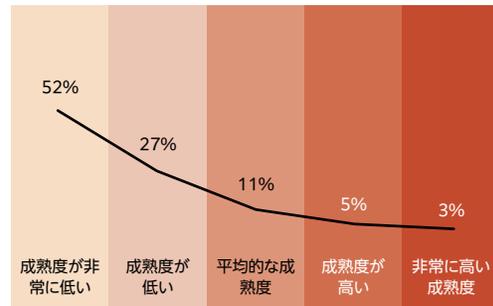
図 3

御社は過去2年間に、いくつの新規市場に進出しましたか？

2つ以上の新規市場



新規市場ゼロ



国際展開は、言語プログラムの成熟度とも密接に関連しています。より発展したプログラムを有する企業は、過去2年間に新規市場へ参入した可能性が著しく高く、言語能力が国際化計画および商業的機会における重要な推進要因であり続けていることを示唆しています。一方で、成熟度が極めて低いカテゴリーに属する組織では停滞が見られ、52%が過去2年間に追加の市場拡大を行っていませんでした(前年比32%から増加)。

「[言語トレーニングの最大の影響は]、世界中のクライアントと本物の関係を築き、数値では測れない信頼を創出できたことです。」

米国テクノロジー企業 ディレクター



# 学習文化は従業員の エンゲージメントを強化し 離職率を低下させる

今年の調査結果でも、成熟した言語プログラムを有する組織ほど、従業員エンゲージメントのレベルが高く、労働力の安定性が高いことが示されています。成熟度が非常に高い組織のほぼ全てが、従業員のエンゲージメントが非常に高いと述べていますが、成熟度の低い組織では、エンゲージメントの低下を示す兆候が見られる可能性が高くなっています。

言語成熟度が非常に高い企業は、より安定した労働力を有していると報告しています。従業員の離職率が非常に低いと報告する割合は、言語成熟度が非常に低い組織と比較してほぼ2倍に達しており、適切に設計された言語プログラムが人材の定着を支援していることを示唆しています。

その背景には、基盤となる企業文化の強さが影響していると考えられます。調査対象組織の約半数が、自社の文化を「強力に明確に定義されている」と説明しており、成熟度が高いグループに属する企業ほど、その傾向がより顕著に見られます。

調査結果は、言語成熟度が学習文化を支え、人材の獲得および定着を促進するとともに、従業員エンゲージメントを高め、グローバルチーム全体の組織的な結束を強化することを示唆しています。

「言語学習がもたらした最大の影響は、従業員が当社の文化への帰属意識を強く持つようになり、離職率が低下したことです。」

中国に拠点を置くテクノロジー企業のCEO(年間売上高51億ドル以上、従業員数5,000名以上)

図 4  
従業員エンゲージメントが高い、または非常に高いと報告している企業

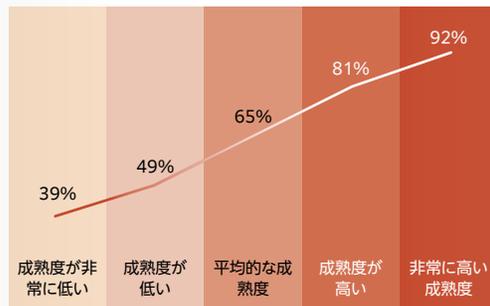


図 5  
従業員の離職率が低く、定着率が高い企業

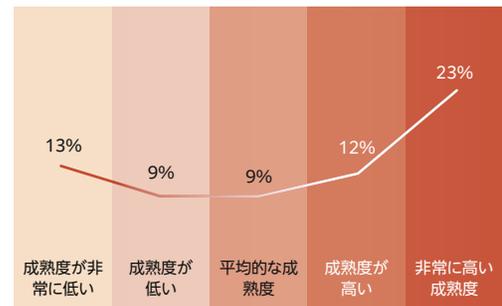


図 6A  
協働、革新、そして従業員の幸福を重視する、強固で明確に定義された企業文化を報告する企業

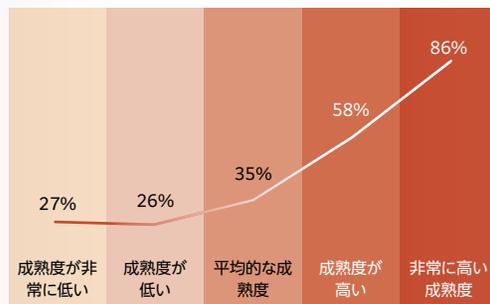
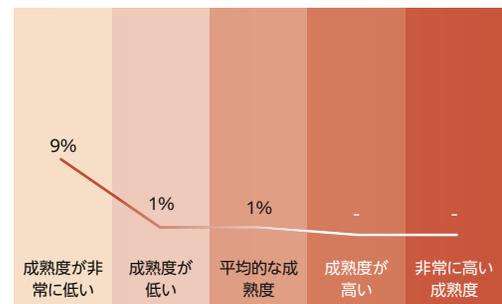


図 6B  
企業文化を優先しない企業



# 言語学習プログラムの成熟度はイノベーション実践を促進する

の高いプログラムは、部門横断的な取り組みと明確な責任体制に支えられた、組織全体で一貫したイノベーション実践と強い相関関係があることが明らかになりました。さらに、成熟したプログラムは、グローバルチーム間での効果的なアイデア共有や調整を可能にするコミュニケーション基盤と共通の作業言語を提供しています。

成熟度の高い言語プログラムを有する組織は、アプローチおよび実践の両面において、より高いイノベーション能力を有していると報告しています。非常に成熟度の高い企業の80%以上が研究開発に投資している一方で、成熟度の低い企業では、市場の変化に対して反応的なアプローチを取る傾向がより強く見られます。

本年の調査では、組織全体におけるイノベーション実践の広がりや評価する指標を新たに導入しました。その結果、成熟度

「言語学習がもたらした最大の影響は、多様な視点からの交流を通じてイノベーション能力を向上させたことです。」

スウェーデンの運輸・物流企業CEO(年間収益5億100万ドル以上)

図 7A

「新製品・サービス・プロセスの創出・投資のため、研究開発(R&D)に積極的に投資している」を選択した組織の特徴

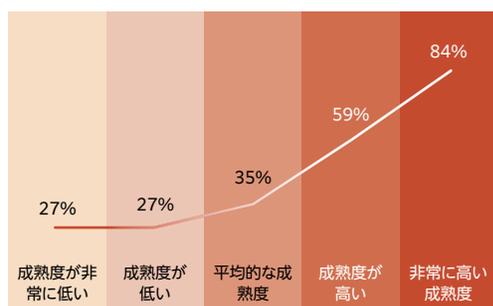
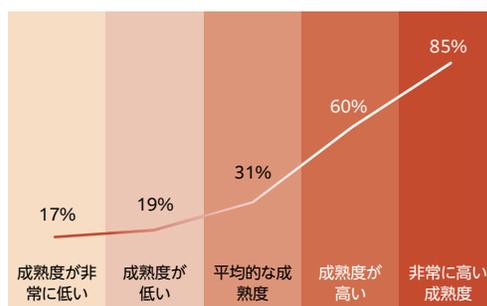


図 7B

「イノベーションは、組織全体にわたる一貫した実践であり、部門横断的な取り組みと明確な責任体制が確立されている」を選択した者を示す



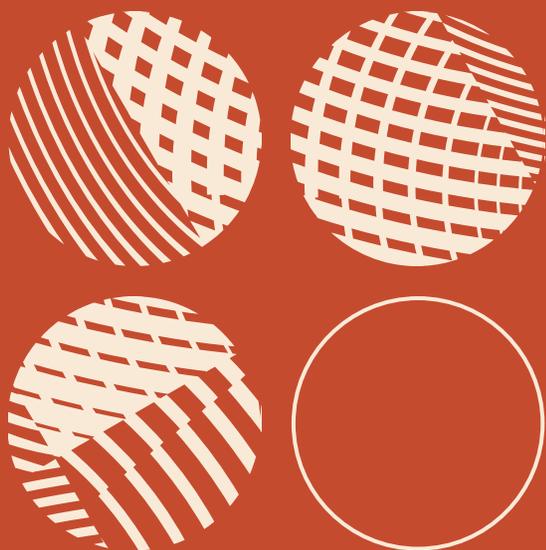
成熟度の高い企業は研究開発に投資する一方、成熟度の低い企業は市場の変化に対してより反応的なアプローチを取る傾向がある

また、成熟度の高い組織は、言語プログラムにおいても革新的な文化に典型的な行動を示しています。具体的には、コンテンツを頻繁に見直し、証拠に基づいた意思決定を行うとともに、トレーニングプログラムにおけるAIの広範な活用を含む新たな手法や技術を積極的に採用しています。こうした取り組みは、継続的な改善を支える働き方を反映しています。

「従業員が成長し、他の拠点へ赴いてアイデアを持ち帰り、自社拠点の改善に活かすことが可能になります。」

フランスに拠点を置く製造業のディレクター(年間収益100億ドル以上、従業員数1万人以上)





## 成熟したプログラムの特徴とは？

前節で示した知見から、言語プログラムの成熟度とビジネス成果との間には、明確な相関関係があることが確認されています。本節では、高い成熟度と最も密接に関連する特徴を明らかにするとともに、それらの要素がプログラムの有効性にどのように寄与しているのかを検証します。

# 成熟したプログラム構築 におけるAIの役割

今年の調査では初めて、企業の語学プログラムにおけるAIの役割を検証しました。その結果、AIはすでに学習エコシステムにおいて重要な要素となっており、特に成熟した語学プログラムにおいて顕著であることが明らかになりました。AIの導入率は成熟度レベルに応じて着実に上昇していますが、AIを全社的に高度活用できているのは、依然として一部の先進的なプログラムに限られています。

一方で、成熟度が非常に低い組織の大半は、AIツールをまったく使用していないか、小規模な試験運用や実験段階にとどまっています。それにもかかわらず、企業規模はAIの導入レベ

ルに大きな影響を与えており、従業員数5万人以上の大規模企業では、全企業平均と比較して、AIをまったく使用していないと報告する割合が約2倍高くなっています。これは、全拠点・全従業員を対象としたAI導入の複雑さが一因である可能性があります。

活用されているAI機能も、成熟度レベルによって異なります。AIスピーキング練習、発話・文章分析、AIによるフィードバック、パーソナライズ学習といった高度なAI機能は、成熟度の高いプログラムにおいて導入されやすい傾向があります。これらの機能の活用は、パーソナライゼーションやプログラム内容・手法の改善を通じて、プログラムの成熟度向上に寄与している可能性があります。

平均すると、組織は3つのAI機能を利用しており、これはAIがプログラムの一部として導入されることで、学習体験における複数の接点へと活用が拡大していく傾向を示唆しています。

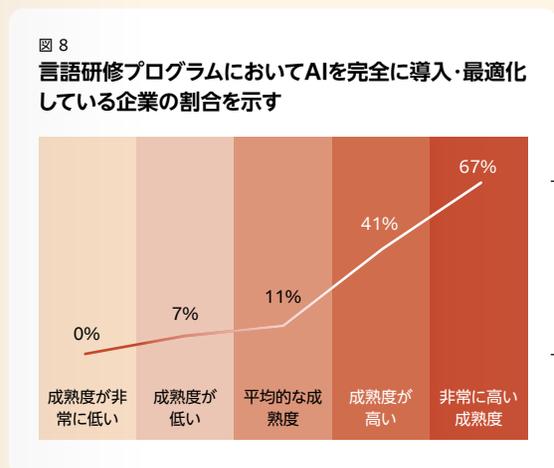
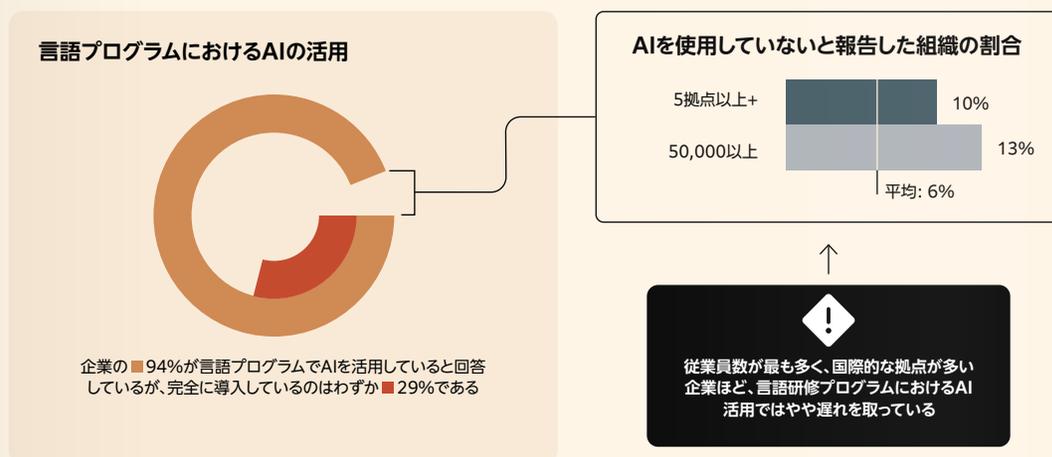
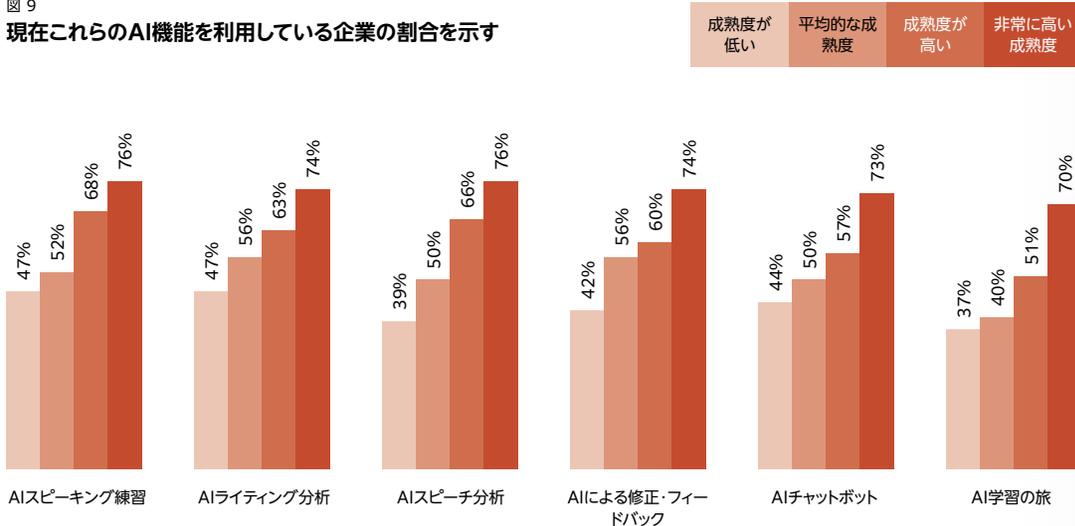


図 9  
現在これらのAI機能を利用している企業の割合を示す



注: 回答者には、研修の少なくとも一部でAIを利用している者(ベース1,138名)のみが含まれる。

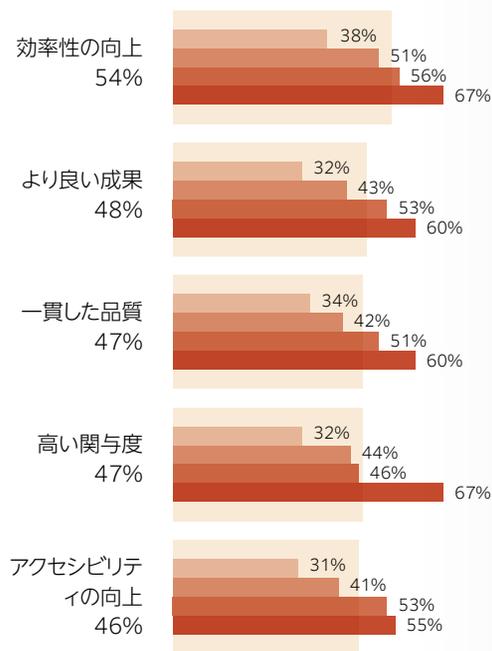
AIの影響は調査対象全体で広く認識されており、AIを利用している組織の99%が、少なくとも1つのプラスの効果を報告しています。成熟度の低い組織では、コスト削減が主な効果として挙げられており、AIが主に支出削減を目的として活用されていることがうかがえます。

一方、成熟度の高い組織では、重点が効率性の向上、エンゲージメントの向上、フィードバックの迅速化、そして成果の向上へと移行しています。これは、単にコスト削減に焦点を当てるのではなく、学習者体験を高めるための効果的なAI機能を活用することが、プログラムの成熟度を高める上で重要な要素であることを示唆しています。



学習者体験の向上にインパクトのあるAI機能を活用すること、コスト削減に主眼を置くのではなく、プログラムの成熟度を高める上で重要な要素である

図 10  
言語プログラムにおけるAI活用の5大影響 (成熟度レベル別)



成熟度の高い組織は、AIの導入範囲が広いことから一貫してより良い効果を実感している

# パーソナライズされた 学習体験

今年、人事・プロジェクトリーダーは再び、パーソナライズされた1対1の学習が語学研修プログラムにおいて最も重要な要素として位置付けられています。しかし、これは依然として最も導入が進んでいない機能の一つです。従業員一人ひとりに、所属部署や個人のニーズ、学習スタイルに基づいたパーソナライズされた体験を提供している組織はわずか37%に留まっています。これは昨年からの進歩ではありますが、ほとんどのプログラムは依然として標準化されたコンテンツに依存しています。

大規模企業ほどパーソナライゼーションを大規模に導入している傾向があります。従業員5万人以上の企業では、従業員一人ひとりにパーソナライズされた体験を提供する割合がほぼ半数に達しており、学習インフラが充実しているほどカスタマイズされた設計が実現しやすいことを示唆しています。

AIを効果的に活用する組織では、この格差が縮まりつつあります。成熟度が非常に高い組織では、58%がAIによりパーソナライゼーションが向上したと回答し、61%がより迅速でパーソナライズされたフィードバックが可能になったと報告しています。一方、成熟度の低いプログラムでは、これらの数値はそれぞれ30%と33%に低下しており、AIを活用したパーソナライズでの学習体験の提供が、組織の成熟度向上につながる可能性を示唆しています。

## 主な特徴は以下の通り

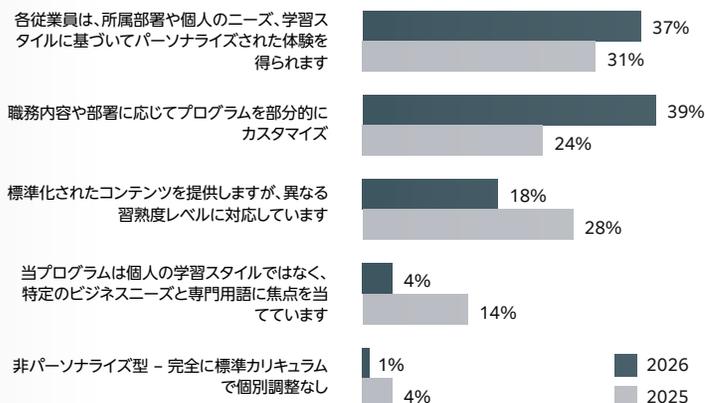


「効果的な語学研修プログラムは、学習者の関与を維持するために、パーソナライズ化された学習、リアルタイムのスピーキング練習、即時フィードバック、マルチモーダルなリソース、ゲーミフィケーションを提供すべきです。」

ブラジルに拠点を置くコンサルティング会社(年間収益5億100万ドル以上、従業員5万人以上)のディレクタ

図 11

## 企業が言語プログラムを個別化する方法



## 従業員ごとにパーソナライズされた体験を提供する企業の割合



企業の規模が大きくなるほど、言語プログラムにおいて従業員一人ひとりに合わせたパーソナライズされた体験を提供する可能性が高まります。

# 文化的流暢性と高度なプログラム機能

文化適応力は、本年の調査において新たに検証された領域であり、成熟度との間に明確な相関関係が確認されました。プログラムの成熟度が高まるにつれて、組織は語学研修の一環としてグローバルな文化理解をより重視する傾向を強めています。一方で、成熟度の低い組織では、ローカルな文脈や混合的なアプローチを重視する傾向が見られます。

市場拡大に関しても、同様の傾向が見られます。過去1年間に複数の新規国際市場へ進出した企業は、進出していない企業と比較して、グローバルコミュニケーションスキルを優先する傾向が著しく高くなっています。これは、言語研修および文化研修におけるグローバル志向が、市場参入に向けた準備を支援していることを示唆しています。

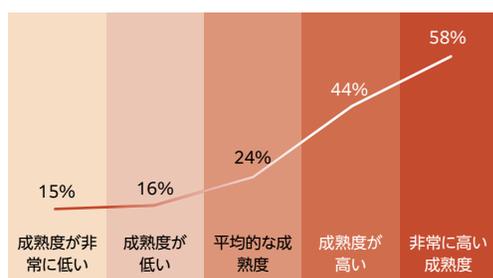
より高度な機能を活用することで、このアプローチを支援します。成熟したプログラムでは、マンツーマン指導、没入型セッション、文化学習が組み込まれる傾向が強くなります。これらの要素は広範なサンプル全体では依然として一般的ではなく、プログラムの実用性を強化し、新規市場に進出するチームをより効果的に支援したい組織にとつての機会を示しています。

「主要機能には、現実のコミュニケーションを実践するための双方向で没入型のセッションに加え、言語使用における文脈やニュアンスを理解するための文化学習が含まれるべきです。」

UAEの製造業企業(年間収益10億ドル以上)の経営幹部

図 12

主にグローバルなコミュニケーションスキルと文化的理解に焦点を当てた言語プログラムを実施している企業(主にローカルなコミュニケーションと文化に焦点を当てるのとは対照的に)



国際市場の変化におけるグローバルコミュニケーション重視と文化理解の相関関係

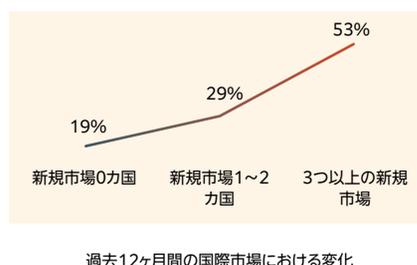
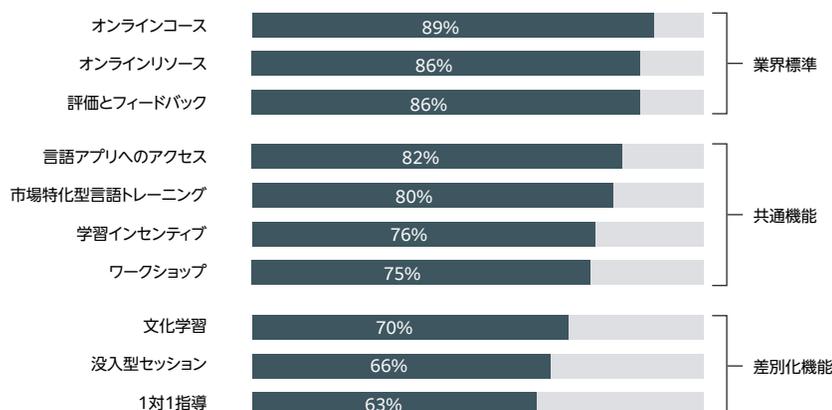


図 13

貴社の語学プログラムで提供されている機能？



# レビュー、測定、および ビジネス目標との整合性

今年の調査結果から、多くの組織が言語プログラムの管理・運営を、これまで以上に計画的に進めていることが明らかになりました。一方で、依然として重要な課題も残されています。ほぼすべての企業が言語プログラムの効果を何らかの形で測定しており、その多くは従業員の習熟度向上を通じて評価されています。しかしながら、プログラムのコストと得られる利益を比較・検証している企業は半数に満たないのが現状です。

このような不均衡は、測定自体は日常的に行われつつあるものの、言語学習を効率性の向上、顧客関係の強化、エラーの削減といった商業的成果と結び付ける点において、組織が依然として課題を抱えていることを示唆しています。こうした関連性を強化することは、企業が言語プログラムの成熟度をさらに高めるための重要な機会となります。

図 14  
企業が言語プログラムの効果を測定する方法

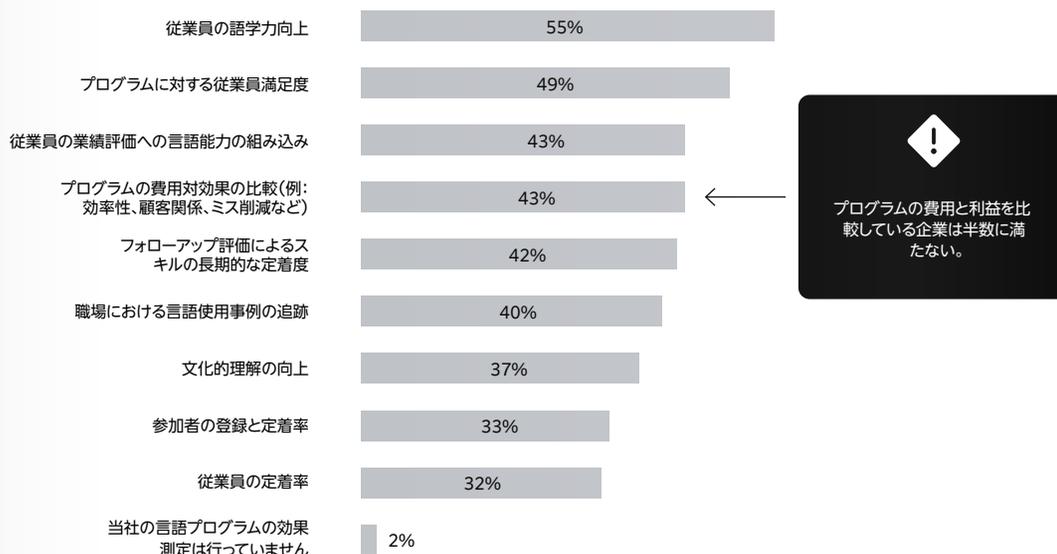
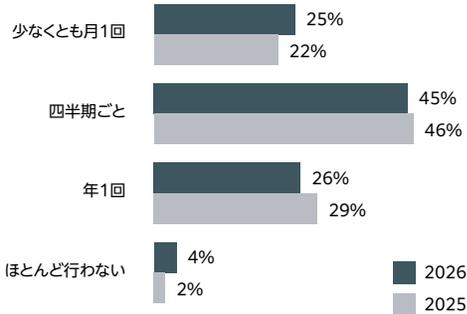
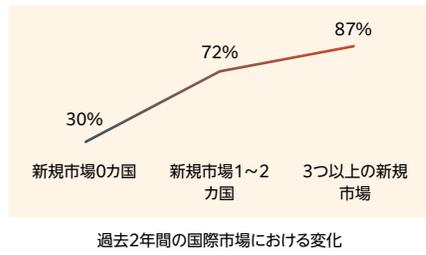


図 15

企業が言語プログラムをレビュー・更新する頻度



過去2年間の国際市場における企業の変化を示す



レビューサイクルも進化しています。3分の2以上の組織が、少なくとも四半期ごとに語学プログラムをレビューしており、月次レビューを実施している割合は昨年から増加しています。

特に、過去2年間に複数の新規市場へ拡大した企業では、プログラムをより頻繁にレビューする傾向が見られます。これは、定期的な評価が、組織の学習戦略を新たな要求に適応させるうえで有効であることを示しています。

また、事業目標との整合性も高まっています。語学研修プログラムが事業目標と「完全に、またはほぼ整合している」と回答した企業の割合は、今年79%から84%へと上昇しました。この変化は、プログラム成熟度の全体的な向上に寄与している可能性があります。

整合性が高まることで、語学学習が事業の優先事項から切り離されることなく、事業目標を効果的に支援することが保証されるためです。

図 16

企業の語学プログラムが目標と整合している程度

2026  
2025

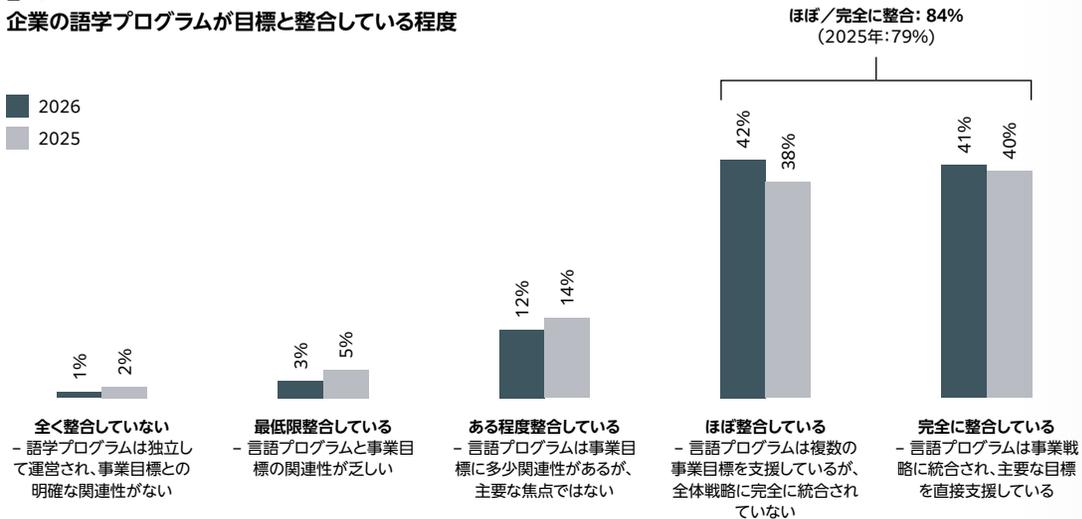
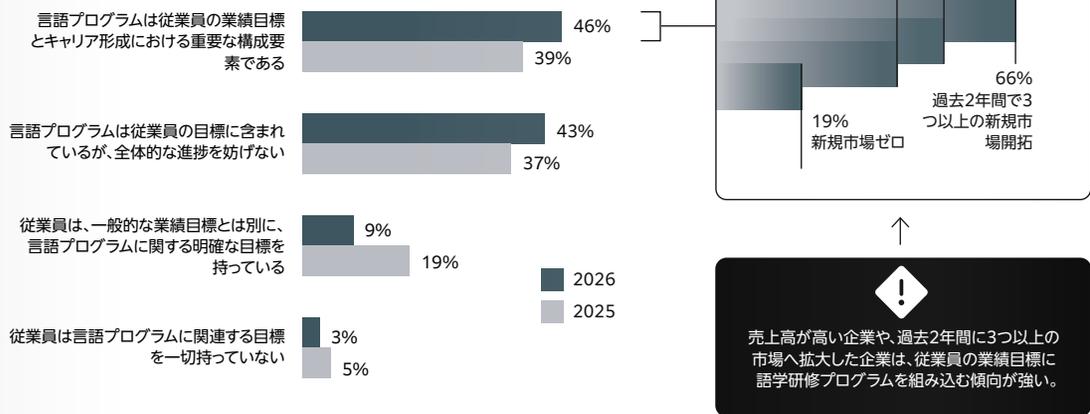


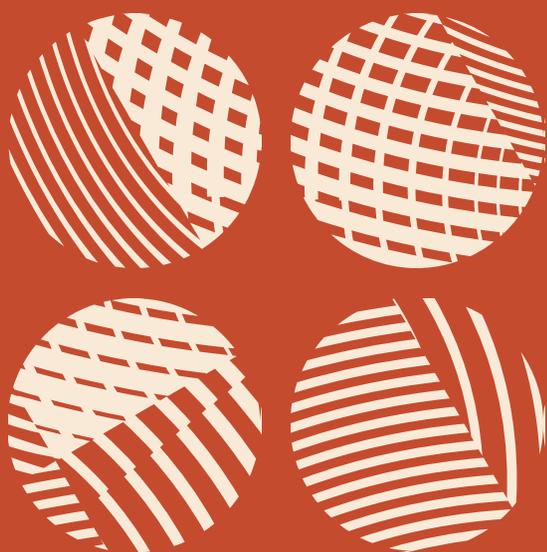
図 17

言語プログラムと業績目標の連動度合い



従業員の業績目標においても、同様の傾向が見られます。現在、組織のほぼ半数が、語学学習を業績目標の重要な構成要素として位置付けています。この整合性は、特に大企業や急成長企業において顕著であり、語学能力が人材計画における必須要素となりつつあることを示唆しています。





## 結論および推奨事項

## 結論

今年の調査結果は、グローバル組織の成功において、言語能力が果たす中心的な役割を明確に裏付けています。そのため、企業が従業員全体にわたって語学研修の必要性が高まっていると報告しているのも、不思議ではありません。業務を効果的に遂行するために語学力を必要とする従業員の平均割合は、2025年比で10%増加しています。

こうした背景のもと、2026年の調査結果は、組織が成熟した言語プログラムの開発に投資した場合、そのビジネスインパクトがコミュニケーション改善をはるかに超えることを改めて裏付けています。高成熟度組織は、収益性、市場拡大、イノベーション、従業員エンゲージメントにおいて引き続き優れた成果を上げ、利益率の差は時間とともに拡大しています。

今年の調査では、組織が成熟度を高めていくプロセスが明確化され、パーソナライゼーションとAIが重要な機会を提供する要素であることが示されました。人事リーダーはパーソナライゼーションの重要性を高く評価している一方で、その活用は依然として十分とは言えません。一方、成熟度の高い組織では、コスト削減にとどまらず、学習効果を高める形でAIを活用する傾向が強く見られます。

総合的に見ると、本調査結果は、語学研修プログラムの成熟度が組織的成功を測る指標であると同時に、その成功を生み出す推進力であることを明確に示しています。

「[語学研修]は顧客の心に直接届く架け橋を築いたのです。私たちはもはや画面越しに話す『供給者』ではなく、彼らの母国語で理解し共感できる『パートナー』です。この信頼感は、いかなるマーケティング手法でも代用できないものです。」

年間収益11億ドル超の中国テクノロジー企業 シニアマネージャー

「[言語学習がもたらした最大の影響]は同じ経歴やキャリアを持つ他社員と比較した業界内での高いスキルと能力、優れたコミュニケーション能力、ローカル及びグローバル環境を把握・理解する能力、そしてより複雑な業務を処理するための高度な認知能力の発達です。」

メキシコの製造業企業(年間売上高11億ドル以上、従業員5,000名以上)のディレクター



業務を効果的に遂行するために語学力を必要とする従業員の割合は、2025年比で 10% 増加した

# 推奨事項:人事・人材開発リーダー向け アクションポイント

人事・人材開発リーダーが語学プログラムから最大の価値を引き出すために、本報告書の知見に基づく主要な推奨事項は以下の通りです:

1

## 学習体験強化のための高度なAI機能の活用

現在、ほとんどの組織がAIをある程度活用していますが、学習成果の向上につながる形で導入している組織は限られています。そのため、カリキュラムの目標と密接に連動するAI機能に焦点を当てることが重要です。

例えば、文の長さや固有語彙の使用頻度、発音の正確性、各レッスンにおける特定の学習目標に対する進捗を測定する音声分析などが挙げられます。これらの機能は練習機会を拡大するとともに、特にグループ学習環境において、人間の耳では捉えきれない詳細なレベルでのフィードバックを可能にします。

AIを単なるコスト削減の手段としてではなく、学習者体験の向上に活用することで、プログラム成熟度を高める重要な推進力となります。

2

## パーソナライゼーションによるプログラムの差別化

パーソナライゼーションはHRリーダーが最も重視する機能でありながら、実際に提供している組織は少数派です。わずかなパーソナライゼーションの取り組みでも、成熟度スケール上で意味のある進歩をもたらします。特定の学習者グループ向けの追加機能ではなく、プログラム設計の標準要素としてパーソナライゼーションを位置付けましょう。AIを活用すれば、大規模なパーソナライゼーションと個別フィードバックの提供も可能になります。

3

## グローバル基盤で文化的適応力を構築する

成熟度の高い組織は、グローバルなコミュニケーション能力および文化的理解をより重視しており、この重点は市場拡大と密接に関連しています。個別指導や、グローバルな視点に焦点を当てた文化学習、ワークショップなどの差別化要素を備えたプログラムを補完することで、学習の実用性を高めるとともに、言語能力を補完する異文化理解を構築することが可能になります。

## 4

### 言語研修を事業戦略と業績目標に 整合させる

言語プログラムを事業目標や従業員の業績計画に結び付けている組織は、一貫して優れた商業的成果を報告しています。言語研修の価値を最大化するためには、事業戦略に統合し、主要な目標や目的に加えて、従業員の業績目標やキャリア形成を直接支援する仕組みを確保することが重要です。

## 5

### 評価サイクルとROI指標の強化

頻繁なレビューは、プログラム成熟度の高さを示す重要な指標です。そのため、戦略的ニーズに対するパフォーマンスを、少なくとも四半期ごとにレビューすることを目指すことが重要です。

一方で、プログラムのコストを、効率性の向上、顧客関係の強化、エラー削減といった便益と比較・評価している組織は、依然として半数に満たない状況です。これは、投資の妥当性や継続的改善に向けた明確なビジネスケースを構築するための重要な機会であると言えます。

# 本レポートについて

2025年秋、EF Corporate Learningは、従業員1,000名以上の国際企業を対象に、L&D(学習開発)および人事部門の意思決定者・影響力者1,300名に対して調査を実施しました。

調査対象組織の66%は従業員5,000名以上の規模であり、81%は年間収益5億ドル以上を有しています。回答者の63%は上級管理職であり、調査対象企業の100%が、何らかの言語研修を従業員に提供しています。

本報告書は、2025年初頭に発表されたEF Corporate Learningの「成熟度レポート」初版を基に作成されました。今

年の調査目的は、前年度の成熟度モデルから得られた知見を検証・深化させること、言語プログラムの成熟度に関連するビジネス成果の前年比変化を追跡すること、そして分析範囲を拡大し、AI導入、パーソナライゼーション、文化的流暢性、イノベーションなど戦略的重要性が高まっている領域を検証することでした。

本調査は多様な業界セクターを対象としており、特にテクノロジー、製造業、専門サービス、医療分野に焦点を当てています。調査は、ブラジル、中国、フランス、ドイツ、イタリア、日本、メキシコ、北欧諸国、スペイン、スイス、UAE、英国、米国において実施されました。

## 回答者の属性

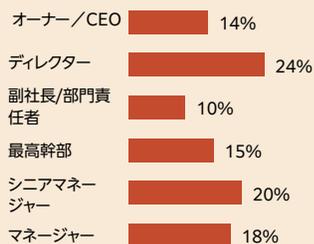
### 国



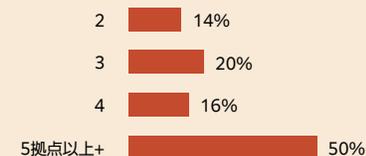
### 年間収益



### 役職名



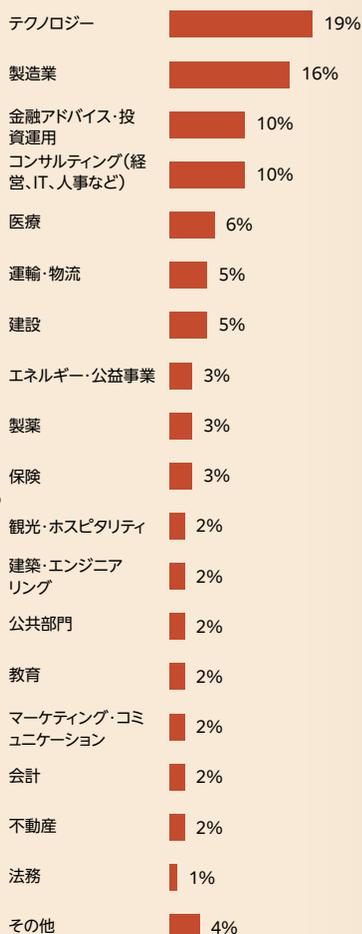
### 拠点数



### 従業員数



### 業種





EF Corporate Learningは、世界で初めて設立された、かつ最大規模の法人向け語学研修プロバイダーです。1965年より企業向けに語学研修を提供しており、1996年以降はオンラインで2,000万人以上の学習者を育成してきました。その長い実績とグローバルな規模は、他に類を見ません。現在、当社が支援する3,000社以上の多国籍企業の多くが15年以上にわたり当社と提携しており、他の研修プロバイダーと比較して、学習者のエンゲージメントおよび学習進捗が3倍高いという成果を報告しています。

